

公益財団法人第五福竜丸平和協会

令和5年度(2023年)事業計画

第五福竜丸展示館は、開館から47年、福竜丸は建造から76年、本年はビキニ水爆実験から69年目にあたる。

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、協会定款と東京都の展示館設立趣旨にうたう貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝えること、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いで保存展示が実現したことを踏まえ、第五福竜丸展示館からの事業を広く都民・市民にむけて取り組む。

こんにち核兵器の問題は、核による威嚇や核軍備の拡張のうごきなどが進行するという懸念すべき事態にある。協会が展示館をとおしてすすめてきた広島・長崎以後の核開発・核実験による被ばく被害の大きさと広がり伝え学び発信することを基本に取り組む。

広島・長崎から80年、ビキニ事件から70年という年月が経とうとしているいま、被爆被害を知らない世代にむけて常設展示や企画展などを構想し、第五福竜丸被災・ビキニ事件の影響の広がり、マーシャル諸島や世界の核被害を伝えることを重視する。こうした問題意識に立ち来館者への対応、ガイド活動などをすすめる。

インターネットを活用した発信や都内はじめ各地での福竜丸・核被害のパネル展や映画会、学校や市民向けの講演活動などにとりくむ。とりわけ学校見学の促進、展示館の利用の拡大をはかる。

2024年の第五福竜丸水爆実験被災・ビキニ事件70年に向けての事業にとりくむ。

2020年から続く新型コロナウイルスの感染が完全には終息しないもとの、引き続き感染防止に留意し、次第に増加する来館者、来館校への適切な対応をおこなう。

平和遺産、産業遺産としての第五福竜丸の存在とその意義を伝えるとともに、今後の保存などについて検討する。

公益法人のかなめの事業としての展示館業務

- ・ 東京都からの委託業務、第五福竜丸展示館の管理運営は、第五福竜丸平和協会の事業のかなめである。今年度は開館309日(平日242日、日・祝日67日、休館57日)となる。
- ・ 展示館来館者の安全な見学、防火などに万全を尽くす。
- ・ これまで展示館を訪れたことがない学校への展示館見学の働きかけ、インターネットなどを用いての情報発信をおこなう。
- ・ 「展示館のしおり」の活用を広げ、事前学習教材の作成、学校での福竜丸・ビキニ事件などへの学習の実情の把握、学校や教員との繋がりをはかる。
- ・ 展示館と協会の事業を支える賛助会員、ニュース会員を広げるとりくみ、第五福竜丸、ビキニ事件を知らせるとりくみとして『第五福竜丸は航海中』などの書籍の普及、広報資材の活用を広げる。

企画展【展示替え】等の取り組み

- ・ 都との契約にもとづく展示替え(常設展示の一部追加、企画展等の開催)にとりくむ。
- ・ 本年度最初の春の展示替えは、2階見学デッキの常設展示「マグロ漁船第五福竜丸」、元乗組員、久保山愛吉無線長にかんする展示(無線機等の現物展示)と証言活動をつづけた大石又七氏に関する展示、福竜丸模型、証言映像、はえ縄やマグロに関する展示をおこなう。
- ・ 秋の展示替えは、財団法人第五福竜丸平和協会設立50年(1973年11月)に関連し、船の保存とこれに尽力した人びとに関する企画展をおこなう。

展示パネルなどの資材の活用広くよびかける

- ・ 「第五福竜丸被ばく・ビキニ事件」の展示用パネル(20枚組、42枚組など)、マーシャル諸島の核被害パネル、「世界のヒバクシャ～核開発・核実験のもとで」(解説バナーと証言パネル)、映画「西から昇った太陽」などの各地での活用をすすめる。
- ・ 各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師等の派遣、出前授業などをおこなう。

船体・エンジン等の保存のために

- ・ 第五福竜丸船体等保存検討委員会を2016年に設置し協議をすすめてきた。これまで4回の3D測定(2017、2019、2020、2022)を実施し、温湿度測定やカビ・害虫検査、木造文化財の専門家による目視調査や船内の清掃の専門業者による清掃の検討などおこなってきた。こうした取り組みを踏まえながら、委員会での討議をすすめる。タンニン酸の定期散布などをおこなっているエンジンについて対応を検討する。

出版事業ほか

- ・ 「福竜丸だより」は展示館・第五福竜丸平和協会と賛助者、市民をつなぐメディアであり隔月の発行をすすめる。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- ・ 第五福竜丸・ビキニ事件に関するブックレット・シリーズを刊行する。
- ・ 「福竜丸だより」の Web 上での公開につづき、保存運動当時のニュース、宣伝資材等の整理とデータ化にとりくむ。
- ・ 所蔵資料の整理・保存作業をすすめる。

ボランティアのとりくみなど

- ・ 展示館来館者へのガイド、展示館活動への協力などボランティアのとりくみをすすめる。
- ・ 若い世代をはじめ、協力者を広げるとともに、ボランティアとの福竜丸や核問題の学習などをおこなう。
- ・ 今年度は博物館学芸員の実習生を受け入れる。

ビキニ水爆被ばく70年(2024年)にむけて記念事業を準備する

- ・ 第五福竜丸被ばく・ビキニ事件70年を記念する講演会等の企画を検討する。
- ・ 展示館を活用した市民講座やアート展、コンサート、年代別のイベント企画など検討する。
- ・ 子ども、小・中学生対象企画などを検討する。